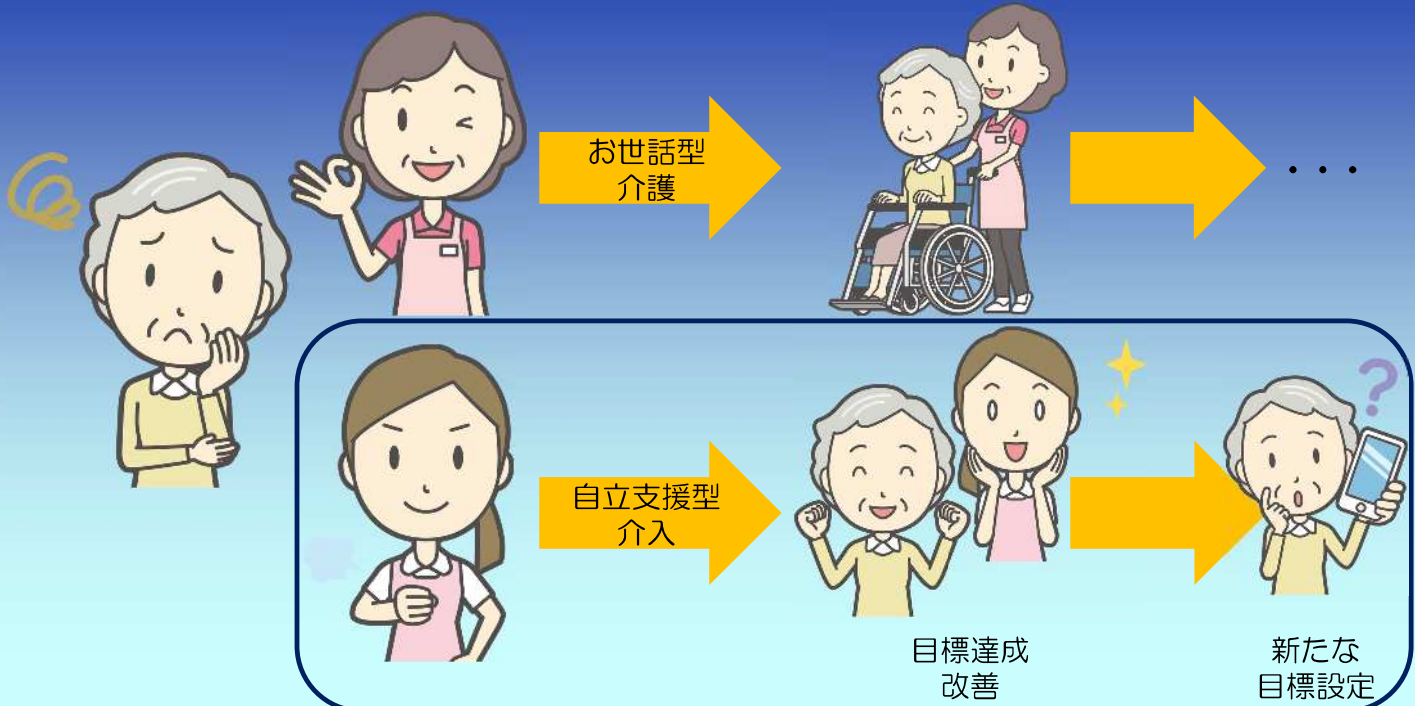


# 生活行為の課題分析

## 課題となる生活行為の 要因分析～プログラムまでの考え方

埼玉県立大学 保健医療福祉学部 作業療法学科  
小池 祐士

### 介入のこれまでと今後



# 今回の内容



① 自立支援の流れ



② 評価：生活行為の見つけ方



③ 目標設定のコツ



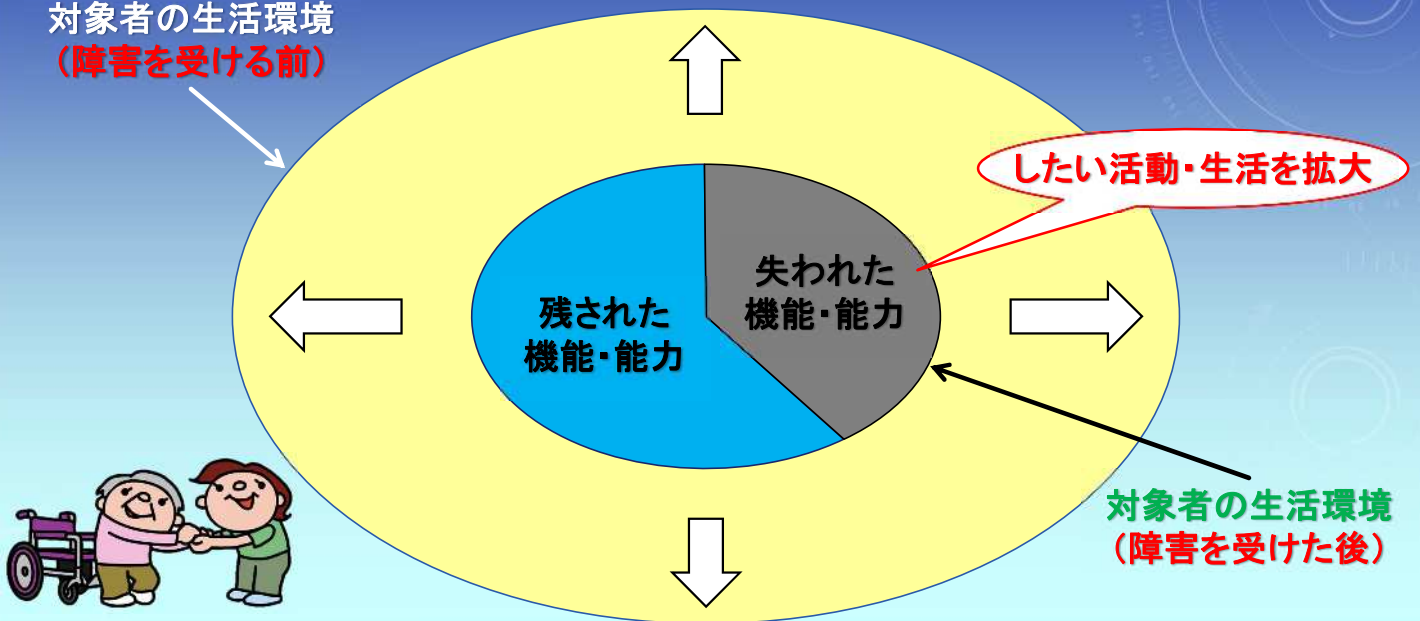
④ プログラム立案



⑤ シートの使い方

## 自立支援のイメージ

対象者の生活環境  
(障害を受ける前)



したい活動・生活を拡大

残された  
機能・能力

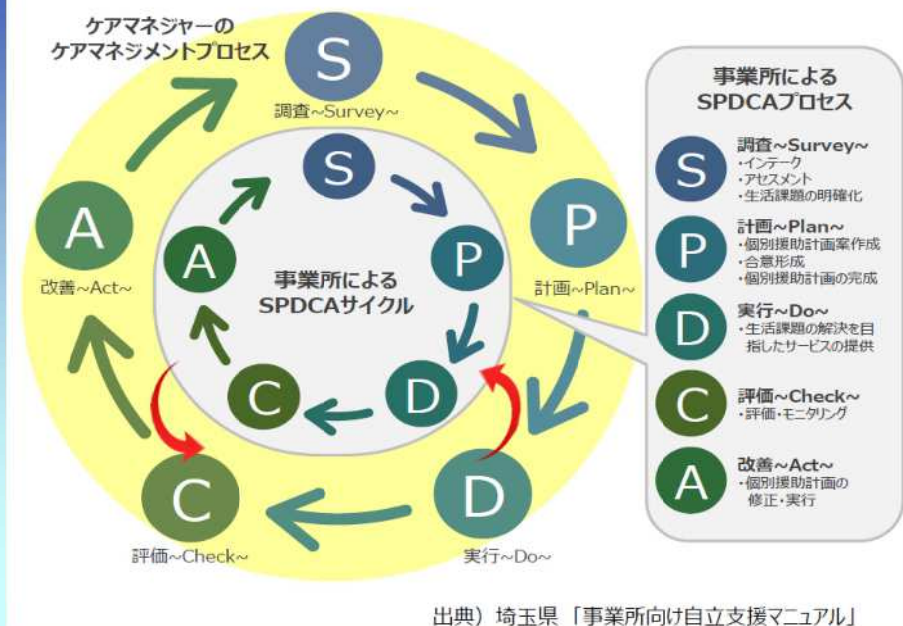
失われた  
機能・能力

対象者の生活環境  
(障害を受けた後)

# 自立支援の流れ

## 自立支援の流れ

### 事業所によるSPDCAプロセス



# 自立支援の流れ

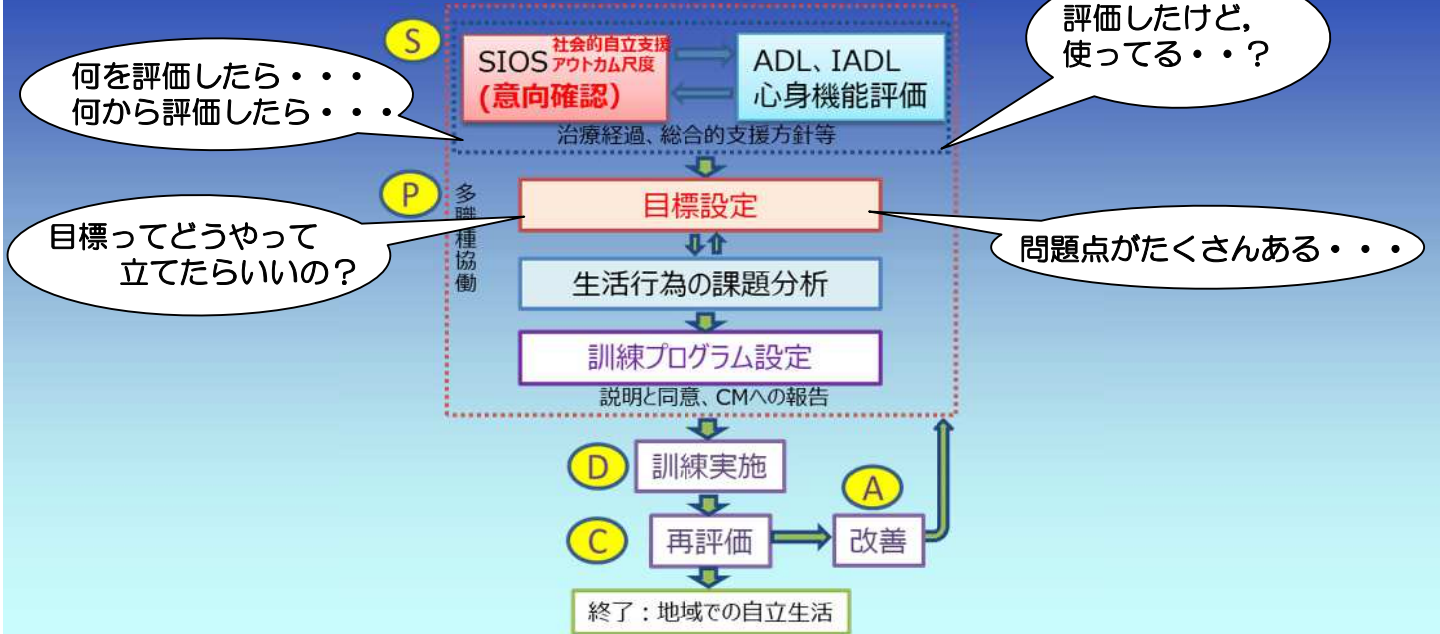


図 個別機能訓練における自立支援ケアのマネジメントプロセス

# 自立支援の流れ

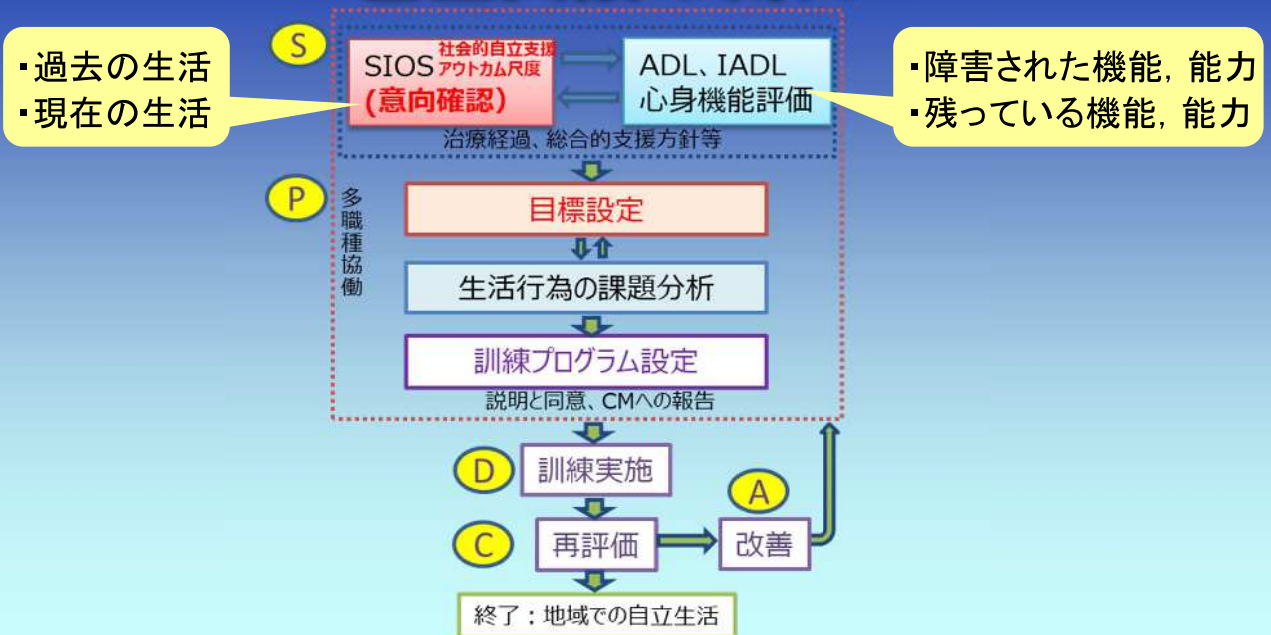


図 個別機能訓練における自立支援ケアのマネジメントプロセス

# 自立支援の流れ

おすすめの

## 評価・介入計画

### 情報収集

- ・過去の生活
- ・現在の生活
- ・機能(残存・障害)
- ・能力(残存・障害)
- ・その他

予測

問題抽出

### 目標設定

- ・将来の生活
- ・機能(残存・障害)
- ・能力(残存・障害)
- ・その他

### 訓練プログラムの立案

目標とする生活の獲得に向けた訓練・指導

説明と同意、CMへの報告



図 個別機能訓練における自立支援ケアのマネジメントプロセス

利用者が求めている  
生活行為の見つけ方

# 生活行為を導き出すポイント

- ◆ 精神機能（意識，見当識，知的，心理，意欲，注意，記憶など）
- ◆ 感覚機能（視覚，聴覚，痛みなど）
- ◆ 音声と発話の機能（構音機能など）
- ◆ 運動機能（関節可動域，筋力，随意運動，歩行など）
- ◆ など

心身機能  
身体構造

健康状態

- ◆ コミュニケーションの理解・表出
- ◆ 運動・移動（姿勢変換，姿勢保持，移乗，歩行，移動，交通機関の利用など）
- ◆ ADL（食事，排泄，更衣など）
- ◆ IADL（調理，掃除，洗濯など）
- ◆ 対人関係（構音機能など）
- ◆ 仕事 ◆ 社会生活

活動

参加

- ◆ 生產品と用具（個人消費用，日常生活上，屋内外の移動用，仕事用，建物の設計など）
- ◆ 自然環境（住民，気候，災害，光，音，空気の質など）
- ◆ 支援と関係（家族，親族，友人，仲間・隣人，サービス提供者など）
- ◆ 態度（家族・親族・友人などの態度など）
- ◆ サービス・制度・政策（交通，社会保障，保健など）

環境因子

個人因子

# 生活行為を導き出すポイント

- ◆ 精神機能（意識，見当識，知的，心理，意欲，注意，記憶など）
- ◆ 感覚機能（視覚，聴覚，痛みなど）
- ◆ 音声と発話の機能（構音機能など）
- ◆ 運動機能（関節可動域，筋力，随意運動，歩行など）
- ◆ など

心身機能  
身体構造

健康状態

- ◆ コミュニケーションの理解・表出
- ◆ 運動・移動（姿勢変換，姿勢保持，移乗，歩行，移動，交通機関の利用など）
- ◆ ADL（食事，排泄，更衣など）
- ◆ IADL（調理，掃除，洗濯など）
- ◆ 対人関係（構音機能など）
- ◆ 仕事 ◆ 社会生活

活動

参加

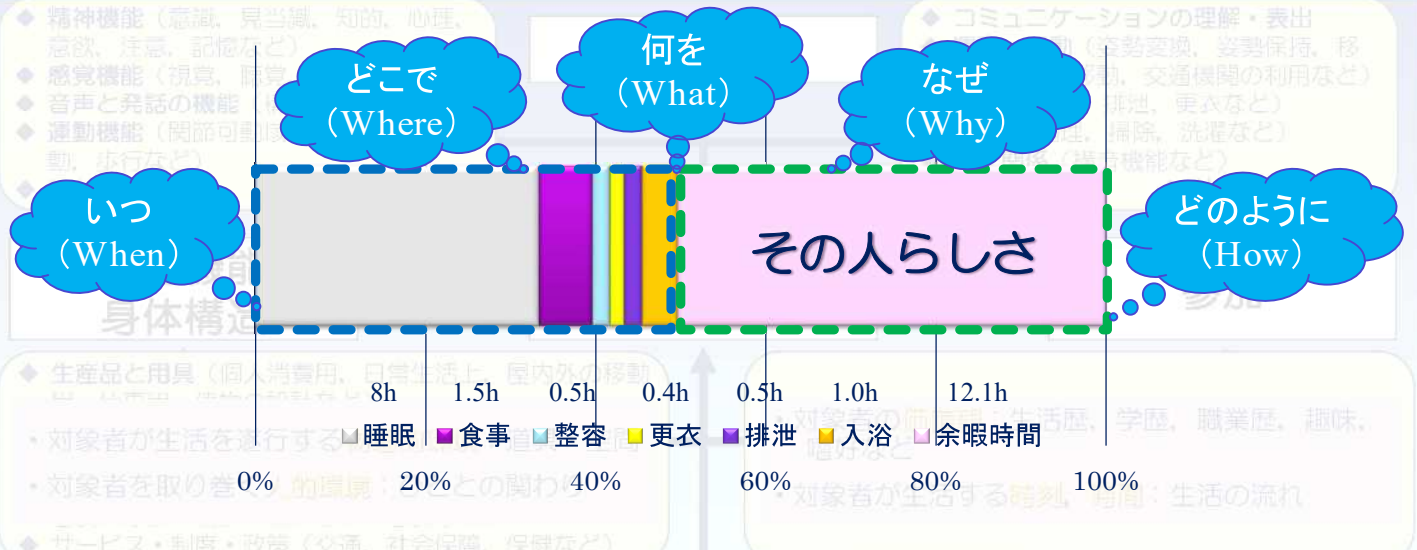
- ◆ 生產品と用具（個人消費用，日常生活上，屋内外の移動用，仕事用，建物の設計など）
- ◆ 対象者が生活を遂行する**物理的環境**：道具・空間
- ◆ 対象者を取り巻く**人的環境**：ひととの関わり
- ◆ サービス・制度・政策（交通，社会保障，保健など）

環境因子

個人因子

- ◆ 対象者の**価値観**：生活歴，学歴，職業歴，趣味，嗜好など
- ◆ 対象者が生活する**時刻，時間**：生活の流れ

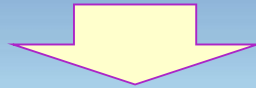
# 生活行為を導き出すポイント



その人らしさを知ることが重要

# 生活行為を導き出すポイント

仕事は？ 家族構成は？ 家庭での役割は？  
 趣味は？ 何を楽しみにしていた？  
 休日は何をしていた？ どんな生活をしていた？



- ◆ その人がしたい生活行為をイメージ化する
- ◆ なぜその作業を行いたいのか
- ◆ その作業の意味や価値を知る

検査・測定だけでなく、面接・観察・課題分析を使いこなして、  
 利用者の**24時間・365日**を知ろうとすることが重要





# 効果的な目標設定

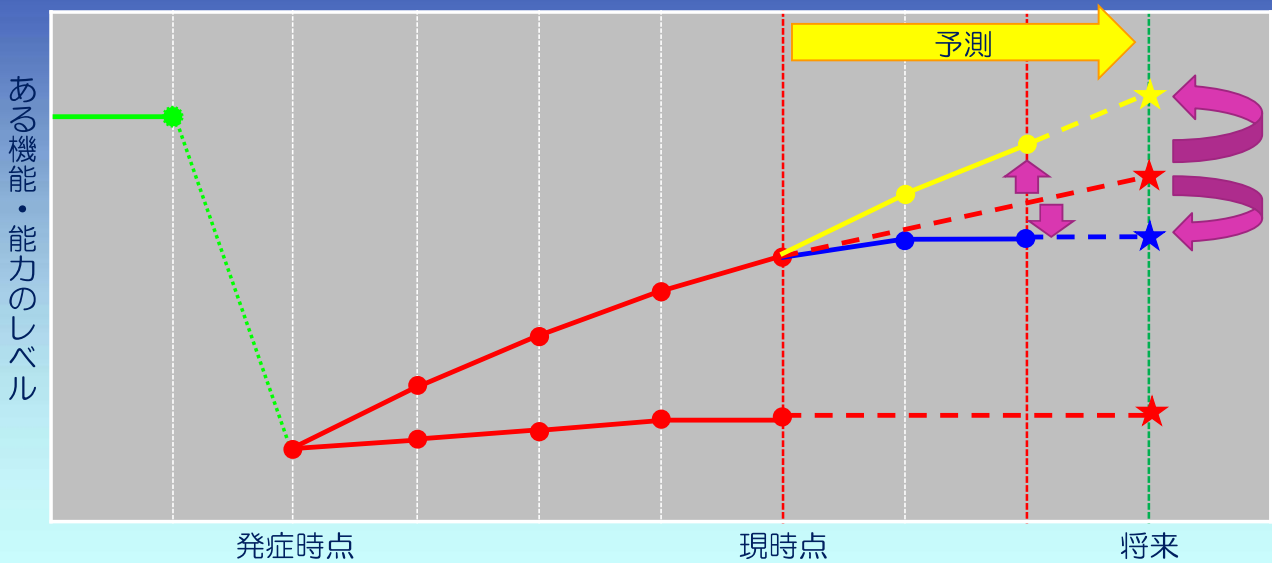
## 問題点の抽出とは？

- 治療目標とする「将来の生活」と「現在の生活」との「差」が問題点となる。
  - ➡ ● 評価から明らかになった障害や問題が、問題点になるとは限らない
  - 達成したい水準に達していないことが「問題点」

目標とする「将来の生活」の予測が必要

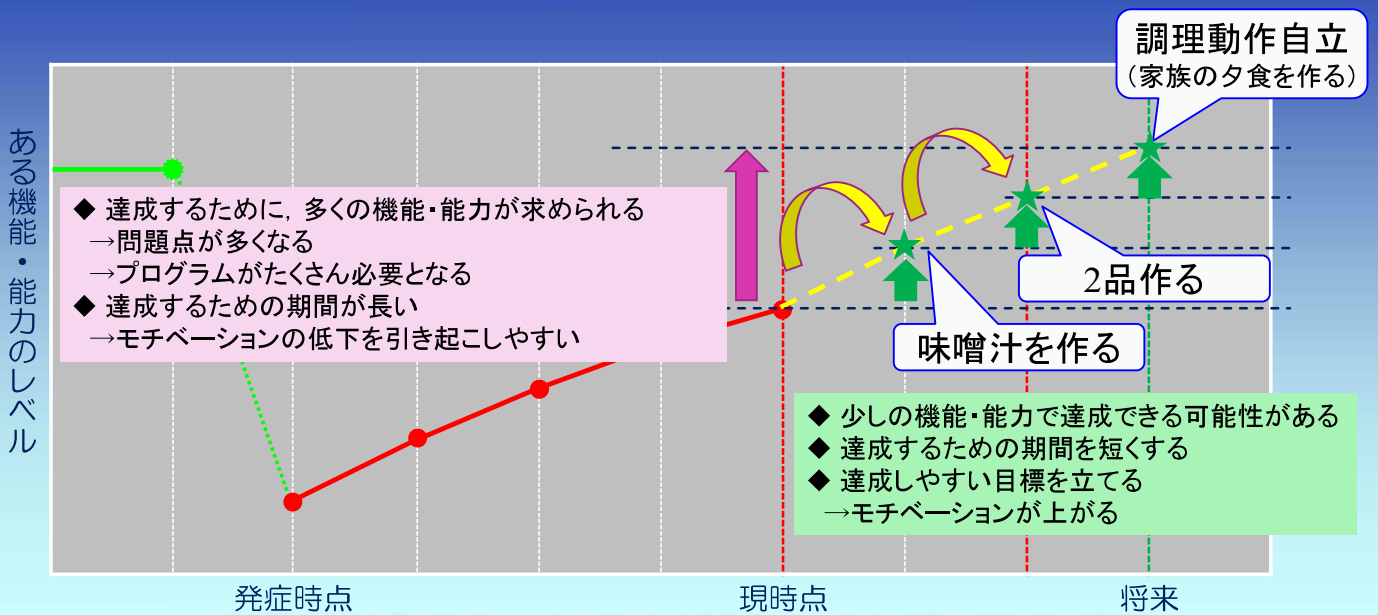


# 定期的な評価の重要性



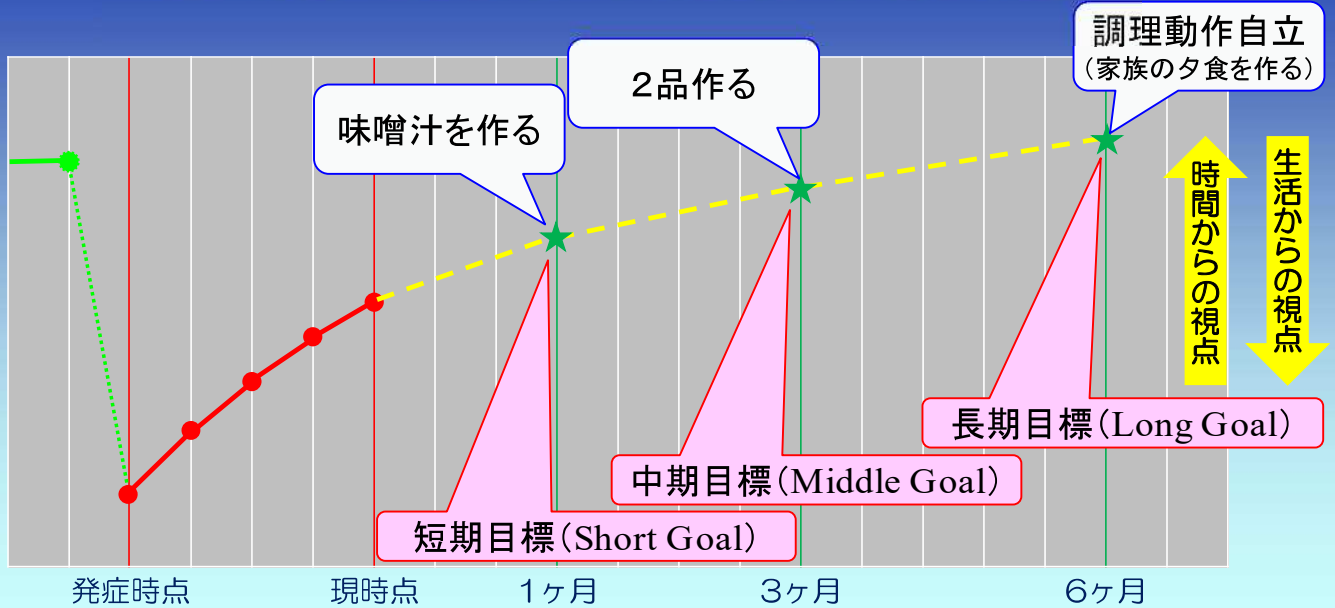
毎回や定期的な再評価・再予測に基づいて、適宜変更すべき

# 目標設定のコツ



達成可能な目標を段階的に設定すべき

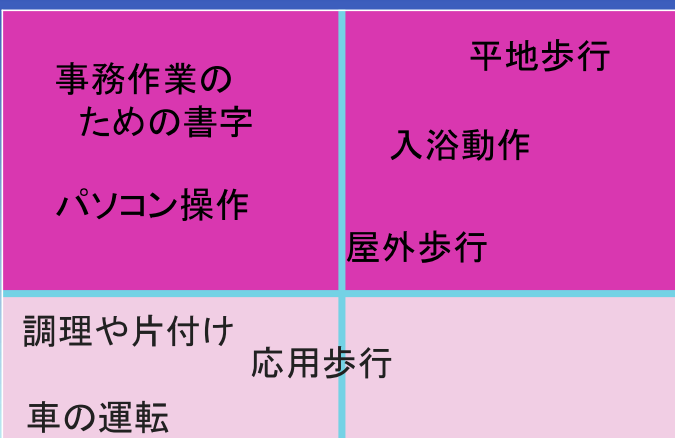
# 達成するための期間の考え方



生活の視点 or 時間の視点から設定できる

# 課題の重要性の検討

大  
重要度



## 優先順位

1. 平地歩行
2. 入浴動作
3. 屋外歩行
4. 応用歩行
5. 事務作業のための書字
6. パソコン操作
7. 調理や片付け
8. 車の運転

- ・ 現状能力とで差がある項目が課題となる
- ・ 緊急度・重要度の高い項目が重要度が高くなる

小 ← 緊急度 → 大

目 次

はじめに

1 「高次脳機能障害」とは

- 1) 高次脳機能障害とはどのような障害なのでしょう ..... 1
- 2) どんな原因で「高次脳機能」が障害を受けるのでしょうか ..... 1
- 3) どのような症状が現れるのでしょうか ..... 1
- 4) 「脳」についてあれこれ ..... 2
- 5) どのようにして「高次脳機能障害」を見分けるのでしょうか ..... 4

2 高次脳機能障害への対応

- 1) まずはじめに知っておきたいこと
  - ア) 高次脳機能障害の特徴について ..... 5
  - イ) リハビリテーションについて ..... 5
  - ウ) 障害の受容について ..... 6
- 2) こんなことで困っている人がいます
  - ア) お使いで頼まれたものが覚えてもらえない(記憶障害) ..... 8
  - イ) 電話することを忘れてしまう(ワーキングメモリー) ..... 9
  - ウ) 仕事に集中できない(注意集中困難) ..... 12
  - エ) 二つ同時にできない(注意配分困難) ..... 13
  - オ) 左側の食べ物に気がつかない(左半側空間無視) ..... 15
  - カ) 訓練開始時間が分からない(時間の見当識障害) ..... 17
  - キ) お店の場所が分からない(空間の見当識障害) ..... 18
  - ク) 段取りが立てられない(遂行機能障害) ..... 19
  - ケ) いつまでも同じことを繰り返す(保続) ..... 21
  - コ) 失語一聴いて理解することが難しい ..... 22
  - サ) 失語一言いたいことが言えない(換語困難) ..... 22
  - シ) 失語一言い間違いが多い(錯語) ..... 23
  - ス) 失語一読むことが難しい ..... 24
  - セ) 失語一書くことが難しい ..... 24
  - ソ) 間違えて急須に水を入れてしまう(失行) ..... 26
  - タ) 何度も行っているのに道順が分からない(地誌的障害) ..... 27
  - チ) 感情がコントロールできない(情緒・行動的障害) ..... 28

- 3 事例 ..... 29
  - 1) 肢体不自由者更生施設を利用し、新規就労した事例 ..... 30
  - 2) 肢体不自由者更生施設を利用し、身体障害者授産施設に入所した事例 ..... 32
  - 3) 入院から外来へ、長期間利用している事例 ..... 34
  - 4) 病院部門を利用し、家庭復帰した事例 ..... 36
  - 5) 肢体不自由者更生施設を利用し、家庭復帰した事例 ..... 38
- 4 リハビリテーションスタッフ ..... 40
- 5 高次脳機能障害の予後 ..... 41
- 6 社会資源・制度
  - 1) 事故(発症)直後 ..... 42
  - 2) 在宅生活への支援 ..... 44
  - 3) 在宅での生活を充実するために利用できる施設 ..... 45
  - 4) 社会参加と就労準備 ..... 45
  - 5) 入所施設関係 ..... 46
  - 6) 経済的な補償 ..... 47
  - 8) 就労関係 ..... 49
  - 9) 相談窓口 ..... 49
- 7 付録
  - 1) メモリーノートの例 ..... 51
  - 2) 医療機関一覧 ..... 54
  - 3) 関係団体 ..... 55
  - 4) 参考図書 ..... 55

工程分

積み

機能

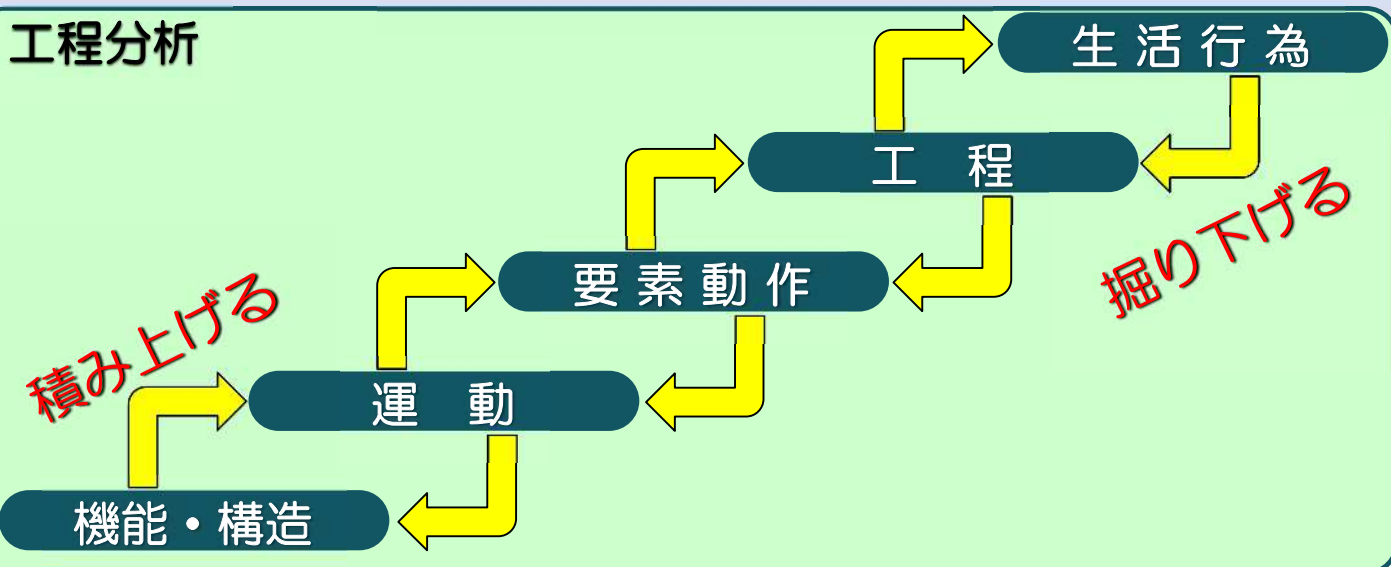
と

為

上げる

# 工程分析の流れ

工程分析



どの工程が不可能か、どの要素動作が不可能か、どの運動が不可能か、どの機能・構造の障害が影響しているのかを明らかにする



# 社会資源とは

利用者がニーズを充足したり、問題解決するために活用される各種の制度・施設・機関・設備・資金・物質・法律・情報・集団・個人の有する知識や技術等を総称している。

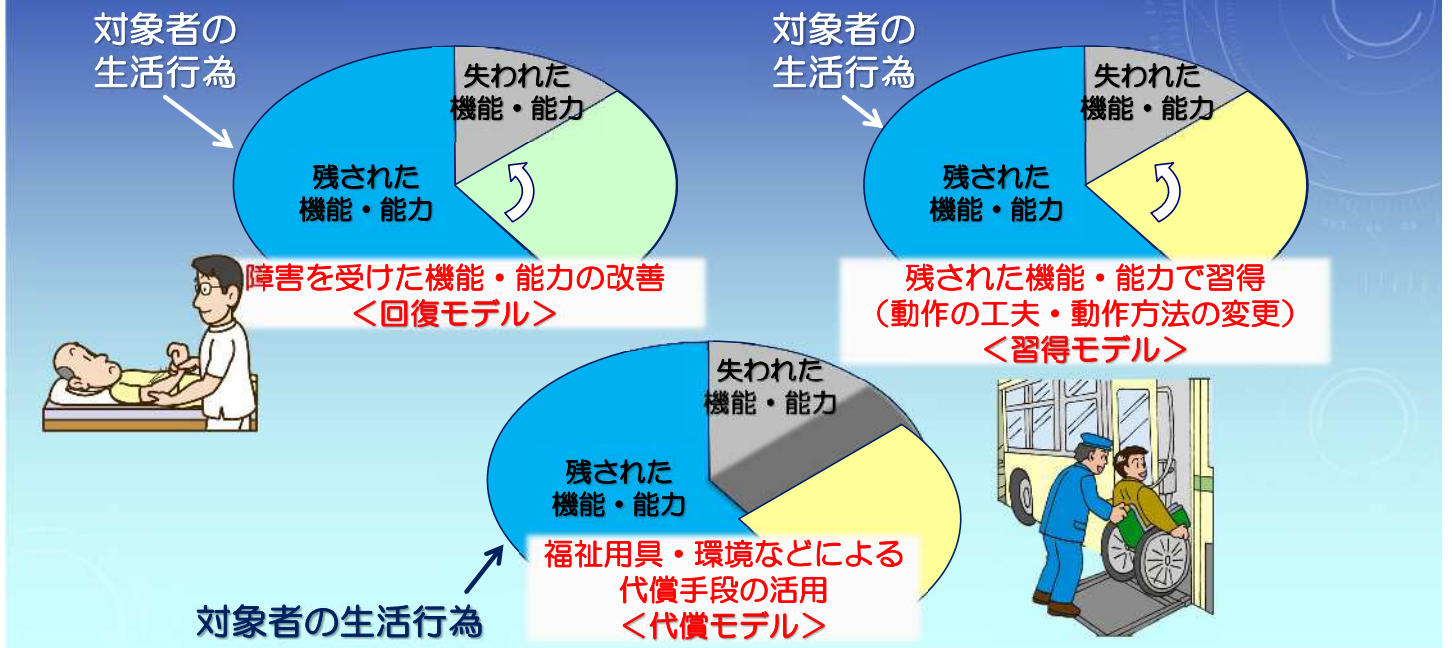
(『精神保健福祉用語辞典』中央法規より)

- **制度**：自立支援医療，精神障害者保健福祉手帳，障害年金，生活保護など
- **社会復帰施設**：生活訓練施設，グループホーム，精神保健福祉センターなど
- **公的機関**：役所，保健所，精神保健福祉センターなど
- **医療機関**：病院・診療所など
- **人的資源**：家族会，自助グループ，近隣住民など

# 社会資源とは

人的資源	本人，家族，親戚，友人，近隣住民，医療福祉等の専門職など
物的資源	青果店，鮮魚店，精肉店，酒店，スーパーマーケット，ガソリンスタンド，理髪店，美容院，電気・ガス・水道などのインフラ，自家用車，バス，タクシー，鉄道など
公的サービス (フォーマル)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 制度に基づくサービスの提供が基本</li><li>・ 制度は，高齢者，障害者，児童等の分野別にならざるを得ず，複合的な課題には，いくつかの社会資源を組み合わせることなどが必要</li><li>・ 柔軟性に乏しく，自由度が低い</li></ul>
私的サービス (インフォーマル)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 制度に基づかない住民の自主的な，あるいは民間企業による活動やサービス</li><li>・ 提供する側も利用する側も，状況に応じて活動の形を変えることが容易にできる</li><li>・ 柔軟性があり自由度が高く，多機能な側面をもつ</li></ul>

# 自立支援の介入方法



## バランスよく改善策を考える

- ① 機能訓練プログラム（回復モデル）：心身機能へのアプローチ  
ex) 筋力トレーニング, バランス練習, 注意機能練習
- ② 応用的プログラム（習得・代償モデル）：具体的生活行為のシミュレーションを伴う活動と参加へのアプローチ  
ex) 移乗動作練習, 移動動作練習, ADL練習, 家事練習

※機能アップ ≠ 生活行為の獲得  
≠ 自立支援

目標とすべき生活行為は忘れない  
機能訓練の先に、生活行為の獲得できるか確認する

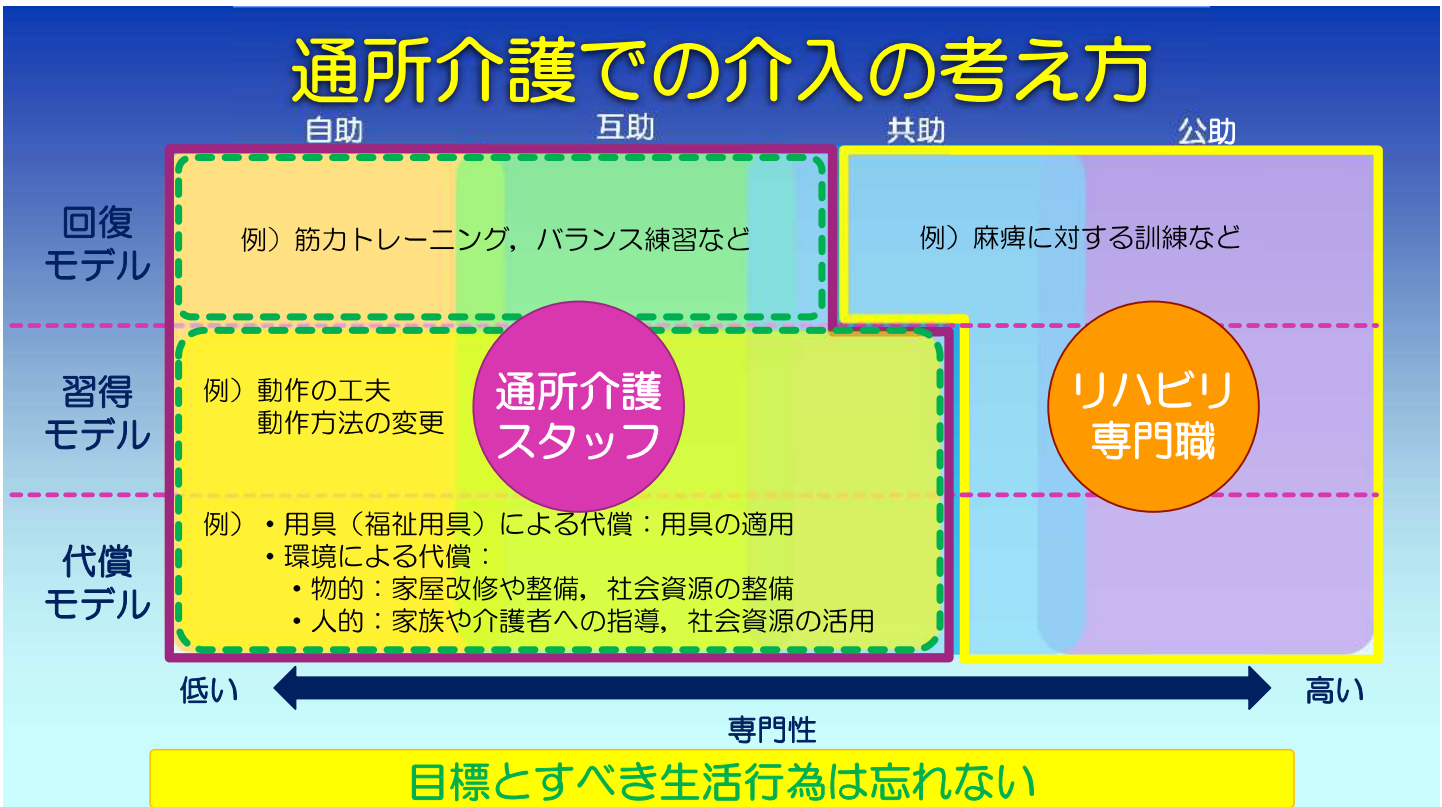


# 通所介護での介入の考え方



(出典) 「平成20年度地域包括ケア研究会報告書より抜粋」

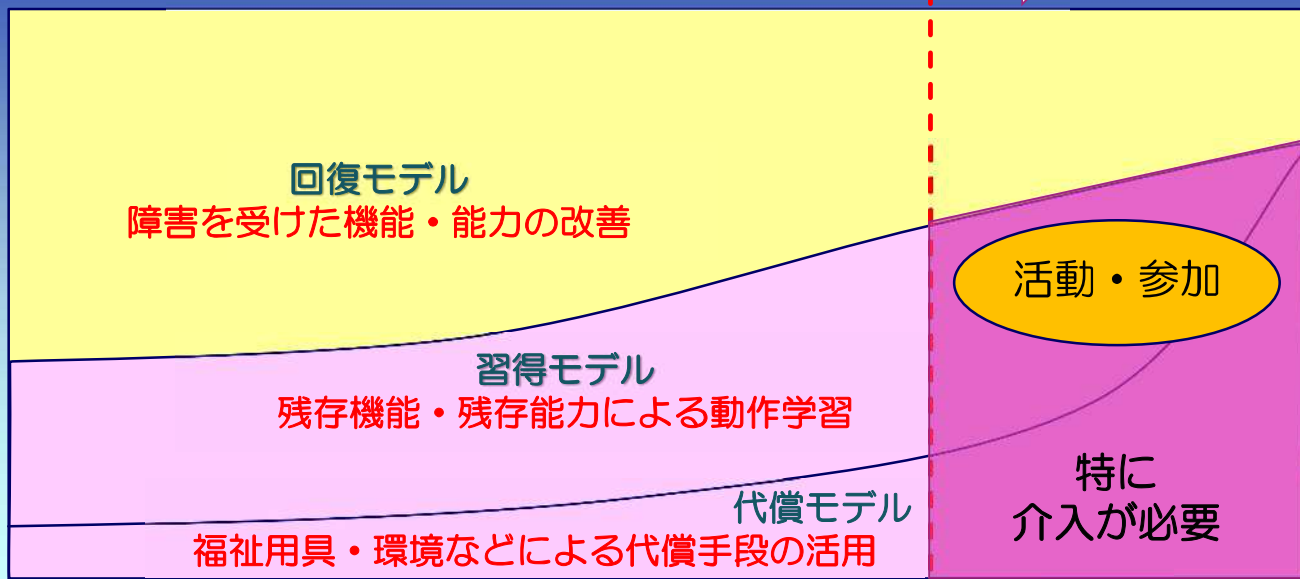
# 通所介護での介入の考え方



# 時間経過に応じた介入を

→ デイサービスの利用

(例) 能力獲得のための治療内容



↑ 発症後/治療開始時点

時間経過

# 活動・参加にアプローチするためのポイント

いかに対象者の主体性を引き出すか

主体性 ←→ 抑うつ



できない辛さ



うつ傾向

- ・ 小さいことでも楽しみ、生きがいを感じることでできる意識や価値観を作る必要がある。

抑うつのコントロールには、価値観の転換が重要

# 介入につなげるための評価（発想の転換）

## ウィークネス（弱み）モデル

- 医学モデルやケアマネジメントなど、対象者の弱みを評価・分析し、強化・手当てするアプローチモデル



## ストレンクス（強み）モデル

- 「**すべての人は何らかの強みを持っている**」という視点に立ち、その人の強みに焦点をあて、その人の主体性や自立心を引き出しつつ、生活の課題を解決するアプローチモデル

# ストレンクス（強み）の種類(例)

### 人の性質・性格

- 正直
- 思いやりがある
- 親切である
- 辛抱強い
- 感情が豊か
- 話好き
- 世話好き
- 几帳面
- 面倒見がよい



### 技能・才能

- 金銭管理が正確
- 記憶力が高い
- 花をいけられる
- 裁縫が得意
- 人生経験豊富
- 歌がうまい
- 家庭で役割がある
- 絵がうまい
- 体力がある



### 関心・願望

- 温泉が好き
- 料理が好き
- 孫が好き
- 人の役に立ちたい
- 料理を教えたい
- 将来の夢がある
- 旅行に行きたい
- 仕事が楽しい
- 映画が好き



### 環境

- 家族がいる
- ペットがいる
- 自宅が住みやすい
- 親友がいる
- 信頼できるケアマネ
- 経済的余裕がある
- 近くに商店街がある
- 趣味仲間がいる



# 強みを活かした生活目標の達成に向けた介入を

➤ 大好きな孫の結婚式に参加する

➡ 体調管理に気を付ける！



➤ 姉の車に乗り、季節に合わせた場所に行き、写真を撮る。

➡ 車の乗り降りを練習する！



強みを活かした目標設定が、  
動機付けや主体性を引き出す

## 生活参加の解釈

### ◆ 主体的な活動

➤ 本人の楽しみや生きがいにつながる生活活動  
(例) 生きがいのカラオケを楽しむ



### ◆ 主体的な存在

➤ 自己の存在を肯定し、前向きにとらえる意識  
(例) 長生きしたい、生きててよかった



### ◆ 家庭や社会での役割



# 家庭や社会での役割

## ◆ することによる役割（作業的な役割）

- ▶ 他者に対し、直接的に何か作業をすることによる役割  
(例) 家事・仕事・お世話・指導・・・



## ◆ いることによる役割（存在の役割）

- ▶ 他者に対し、直接的に作業することによらない、存在自体で成立する役割  
(例) 家族・友人として、  
車いすで買い物する住民として



役割の意識が自分の存在価値を肯定する



評価における知識・技術・経験は、  
独創的で経験豊かなシェフのようである

# 本研修で使用するシート

シート1  
SIOSを用いた評価

シート2  
目標候補の選択

シート3  
参加目標の設定と細分化

シート4  
活動目標の設定と細分化

シート5  
心身機能の目標設定と訓練プログラムの決定

シート6  
発表用シート(まとめ)

該当箇所にチェック

面接時に得られた情報を記載

身体機能・ADL評価結果の入力

# 本研修で使用するシート

シート1  
SIOSを用いた評価

シート2  
目標候補の選択

シート3  
参加目標の設定と細分化

シート4  
活動目標の設定と細分化

シート5  
心身機能の目標設定と訓練プログラムの決定

シート6  
発表用シート(まとめ)

シート1でのチェックが自動的に反映

以前と現在の差がわかる

取り組みたい、もしくは維持・強化したい基本動作にチェックをつける

# 本研修で使用するシート



**参加長期目標の選択** (サイバーベース環境)

**長期目標を1つ選択**

以前と現在の差が自動反映(シート1「5. 家庭での役割」, 「6. 社会参加」の項目から)

選択した長期目標の具体例を選択しなければ清書

上記で選択した長期目標が自動的に反映

**より具体的で達成可能な目標を清書**

自動的に反映

**参加長期目標を達成する生活上の行為の細分化**

細分化した行為の領域を選択

長期目標となる生活行為を細分化して記載

現在の可否と優先順位を決定

優先順位順に自動的に反映

達成に必要な項目・内容を選択

**具体的で達成可能な目標を清書**

**参加長期目標の決定** (目標清單欄に目標を具体的に記入します)

達成に必要な項目・内容を選択

**具体的で達成可能な目標を清書**

# 本研修で使用するシート



**活動長期目標の選択** (目標清單欄に設定した目標を手入力します)

**長期目標を1つ選択**

現在できていない, または維持・強化したい内容が自動反映(シート1「1. 移動範囲」~「4. 運動習慣」とシート2「基本動作」の項目から)

上記で選択した長期目標が自動的に反映

**より具体的で達成可能な目標を清書**

**活動長期目標を達成する生活上の行為の細分化**

選択した長期目標の具体例を選択

長期目標となる生活行為を細分化して記載

細分化した行為の領域を選択

現在の可否と優先順位を決定

優先順位順に自動的に反映

**具体的で達成可能な目標を清書**

**活動長期目標の決定**

達成に必要な項目・内容を選択

**具体的で達成可能な目標を清書**

# 本研修で使用するシート



**「心身機能」目標(長期・短期)の設定**

3. 及び4. ページで細分化した重要な行為ごとに選択した「行為の遂行を達成するための要因」の種として自動表示されます。候補が1つ以上になるよう、3. 及び4. ページで選びましょう。その中から「心身機能」目標を選択して、より具体的な文章で清書欄に書き込みます。

**目標を1つずつ選択**

目標候補	心身機能の目標候補	短期目標 ひとつ選択	長期目標 ひとつ選択
全身持久力を向上する		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
関節の可動域を改善する		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
筋力を維持・増強する		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
筋緊張を緩和する		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
運動の協調性を向上する		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
疼痛を緩和する		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

**プログラム候補が自動反映(シート3・4「達成に必要な支援項目」から)**

**プログラムを4つまで選択**

**目標と訓練プログラム候補をプルダウンリストから選択(参加・活動の目標と上記プログラム候補から)**

**個別機能訓練・目標と訓練プログラムの内容**

番号	プログラム候補	個別機能訓練項目	留意点
①	清書欄(40字以内) 玄関外の段差を安全に昇降する	玄関外の段差を安全に昇降するために 関節の可動域を改善する訓練を行う	
②	清書欄(40字以内) 友人宅まで歩いていく	友人宅まで歩いていくために 全身持久力を向上する訓練を行う	
③	清書欄(40字以内) 友人宅まで歩いていく	友人宅まで歩いていくために 筋力を維持・増強する	
④	清書欄(40字以内) 友人宅で過ごす	友人宅で過ごすために 筋緊張を緩和する	

**上記で選択した長期目標が自動的に反映**

**より具体的で達成可能な目標を清書**

機能	短期目標	機能	長期目標
目標記入例	○○の関節可動域を改善する	目標記入例	全身持久力を向上させる
目標清書欄(40字以内)		目標清書欄(40字以内)	
記入例: 膝関節の可動域を改善する		記入例: 歩行時の持久力を改善する	

**必要があれば清書**

# 本研修で使用するシート



高齢者元気力アップ応援事業所認証事業 通所介護事業所向け研修  
心身機能の維持回復から社会参加に至るまでの戦略的自立支援ケアの実践

**成果報告会 発表用資料入力**

事例発表シート

事業所名 \_\_\_\_\_ 発表者名 \_\_\_\_\_

プロフィール \_\_\_\_\_

年齢 \_\_\_\_\_ 年代 \_\_\_\_\_ 介護度 \_\_\_\_\_ 発表日 \_\_\_\_\_

家族構成 \_\_\_\_\_

**基本情報**

**個別機能訓練の目標**

**目標が自動反映**

目標	短期目標	長期目標
機能	記入例: 膝関節の可動域を改善する	記入例: 歩行時の持久力を改善する
活動	記入例: (活動長期目標の一部) 玄関外の段差を安全に昇降する	記入例: 友人宅を訪問する
参加	記入例: 友人宅まで歩いていく	記入例: 友人宅で過ごす

**個別機能訓練プログラム**

**訓練プログラムが自動反映**

番号	プログラム	留意点	支援コード
①	玄関外の段差を安全に昇降するために 関節の可動域を改善する訓練を行う		3
②	友人宅まで歩いていくために 全身持久力を向上する訓練を行う		2
③	友人宅まで歩いていくために 筋力を維持・増強する		4
④	友人宅で過ごすために 筋緊張を緩和する		6

1. 参加した利用者の意向、思い、意向を確認

2. 心身機能、ADL・IADLの評価の結果(問題となるところ)

3. なぜその目標になったのか、あなたが応援したいと思った理由

**シートを作成する際に使用した考え・想い**

4. 目標達成に必要な行為のうち、困難となる行為とその要因は何で、どんな訓練をすれば改善しようと考えたか

5. 目標からプログラムを立案するにあたって苦労したところ、その他全体を通しての感想等